

敷島南小学校 学校関係者評価書

令和2年 3月 2日(月)
敷島南小学校 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：令和2年 2月28日(金) 午前9時30分～10時15分

会場：敷島南小学校 校長室

参加者：学校関係者評価委員

関 芳雄・土橋 満・岡島一浩・森本 清・雨宮 健二 (PTA会長)

学校側

校長：三枝 孝太郎 教頭：松井 渉 教務主任：中山 素

I 学校側から説明された内容

1 自己評価結果及び保護者、児童アンケート結果と今後の方針

◇ 成果

- ・ 教職員の積極的な姿勢による、充実した教育活動への取組
- ・ 児童の学力向上につながる授業実践
- ・ 友だちと仲良くし、進んで学習し、学校生活を楽しむ児童の姿
- ・ 児童の規範意識の向上

◇ 課題 (いっそう充実させたい事項)

- ・ 危機管理マニュアルの周知徹底
- ・ 家庭学習 (宿題以外) の自主的な取組の指導
- ・ 児童の道徳性のさらなる育成と教科道徳の趣旨を生かした授業の取組
- ・ 児童が友だちや教職員に、保護者が教職員に何でも相談できる体制
- ・ 信頼される学校づくり

II 協議された主な内容

1 学校運営

(学校関係者評価委員より)

- ・ ポイントが下がった原因を追究し、改善策につなげる。どのように教育活動の中に生かしているのか。

(学校より)

- ・ PDCA サイクルを行う中で、早期発見・早期対応に努めている。

2 学習指導

(学校関係者評価委員より)

- ・ 道徳は、貴重な教科であると思うが、家庭でも意見交換ができるものであり、具体的にどのように行っているのか。また、質問項目として、道徳だけがピックアップされているが、英語、プログラミング教育について、今後、どのような予定でいるのか。

(学校より)

- ・ 道徳は、授業参観でも公開することにより、保護者と連携を図れるようにしている。正解が一つではない道徳について、「考え議論する」授業ができるように、今後も、全教職員で取り組んでいきたい。また、質問項目については、オリジナル項目として「道徳」を入れ3年目になる。比較ができるように項目内容を検討してきたが、3年を経過したので、今後、質問項目については検討していきたいと考える。

3 生徒指導

(学校関係者評価委員より)

- ・ 児童アンケートの中で、「困った時、相談できる先生がいる」という質問項目に、「あまりいない」「いない」と答えた原因について、なぜ相談できないのか、少しだけ心配しているだけなのか等、深掘りをして確認をしているか。

(学校より)

- ・ この「学校評価アンケート」以外にも、「ハイパー Q-U アンケート」や「明るく楽しい学校生活にするためのアンケート」を行っている。そうしたアンケート結果から、心配される児童には、担任が個別に声かけを行っている。

4 学校の特徴

(学校関係者評価委員より)

- ・ ほぼすべての児童が、学校の外でもあいさつをしてくれる。
- ・ アンケートのポイントにあまりこだわらなくてもよいのではないか。例えば、あいさつについて、「体感していること」「実際に感じている様子」を評価書に記載することも大切だと思う。

(学校より)

- ・ 今後も、あいさつの大切さについては、学校として指導を継続していきたい。定着には保護者や地域の皆様との連携協力が不可欠なので、今後とも御協力をお願いしたい。

<学校関係者評価書>

I 全体評価

- ・ 校長のリーダーシップの下、学校教育目標達成に向けた学校経営が行われている。また教育課程に基づいた学習指導、生徒指導等の学校運営が適切に、また計画的に実施されている。
- ・ 基礎基本を重視した授業や個に配慮した少人数指導等きめ細かな学習指導が、推進されている。
- ・ 言語活動、コミュニケーション力を高める理論研究の推進に加え、子どもたちの論理的思考力を高め、言語力、表現力を育成するための授業実践がなされている。
- ・ あいさつや清掃活動は、子どもたちの生活の中に徐々に習慣化されつつある。今後とも学校では、家庭や地域と連携・協働した取組を進めていきたい。
- ・ 地域の教育力を生かした教育活動が適切に行われている。
- ・ 子どもたちに、「自分の命は自分で守る」力を身につけさせることを最大の目標として、危機管理マニュアルを含む防犯防災教育を行い、子どもたちの発達段階を考慮し、どのような場面でも、子どもたち自身が危険を予測し、回避するなどの安全に対する能力をさらに高めるための具体的な指導が推進されている。
- ・ アンケートの処理の仕方について、ポイントの上下をどう解釈するのか。全体の人数からすると、1、2ポイントでは有意差はないと思われる。改善策については、抽象的でよいと思うが、保護者に対しては具体的な対応に努めてほしい。

II 特徴

1 教職員の自己評価より

全ての項目で肯定的な回答割合が高かった。特に、学校教育目標、学校経営方針を意識した教育活動の実践は、高い水準にあるといえる。学校長のリーダーシップのもと体制も確立され、各自の意見が尊重され、それが生かされる組織になってきている。

危機管理については、マニュアルを理解していない職員もいるなどの課題も見える。子どもの命を預かっているという自覚と危機管理に関する訓練等を通して学校全体での危機管理意識を高める工夫が必要である。

2 児童のアンケートより

ほとんどの質問項目で肯定的な回答が多い。静かで落ち着いた雰囲気の中で楽しい学校生活を送っている様子がうかがえる。「やまなしスタンダード授業づくりの7つの視点」に基づいた授業づくりをより意識した授業改善が求められる。

生活面では、「もし困ったことがあったら、相談できる友だちや先生がいますか」等、教職員と児童の人間関係について、約8割が肯定的な回答である。

児童一人一人に目を向けたきめ細やかな相談体制、学級内での好ましい人間関係の構築を一層図っていく必要がある。

3 保護者のアンケートより

ほとんどの質問項目で肯定的な回答が多く、学校への信頼がうかがえる。家庭学習への取組に関しては、学校として、家庭学習の手引きの見直し等を行い、改善を図っていく。

生活面では、保護者としての義務や責任についてしっかりと意識をもって学校に協力していきたいと考えている。